

一般演題 14-2

当院における高気圧酸素治療の現状と課題

加藤恭浩¹⁾ 奥田 聡¹⁾ 佐合知子¹⁾
 三好祐子¹⁾ 水野琢呂¹⁾ 三輪直毅¹⁾
 両角奈美¹⁾ 児玉暁人¹⁾ 加賀谷美恵¹⁾
 山田実貴人²⁾

- 1) 社会医療法人厚生会木沢記念病院 臨床工学課
- 2) 社会医療法人厚生会木沢記念病院 救急部門

【はじめに】当院は岐阜県中部に位置する452床の2次救急病院であり、2001年より高気圧酸素治療（以下HBO）を開始した。第1種治療装置1台で年間約900件の治療を施行している。当院におけるHBOの現状と課題について報告する。

【現状】当院では高気圧酸素治療専門医1名の指示により、臨床高気圧酸素治療技師3名を含む臨床工学技士8名にてHBOを施行している。2013年は総治療件数939件（救急適応220件、非救急適応719件）であった。（表1）

突発性難聴の治療が全体の71%と多い為、2014年4月より外来治療も開始した。（図1）（図2）

【課題】課題1：岐阜県は内陸県であるが近年減圧症の問い合わせが増加している。しかしながら第1種治療装置では治療が困難である為、対応可能施設への紹介で対応している。

（症例）患者は30代男性、職業ダイバー。数年前よりダイビング後、数日で肘や背部の痛みと痺れを感じるようになるという事であった。この患者は同じ症状で数年間悩まされており、第2種装置での治療や他院で第1種装置での治療を経験している患者であった。当院での対応としては、患者に減圧症の治療は困難であり、第2種装置での治療を勧めたが、遠方での治療に対する費用や時間などの理由もあり、十分に副作用や第2種装置のような治療効果が期待できないことを理解されたうえで、治療を施行した。数回の治療で症状が無くなった為治療を終了としたが、数か月後にも症状が出たためHBOを施行した。今後このような患者に対しどのように対応していくことが良いのかという事は大きな課題ではあると考えられる。

課題2：HBOの担当者は多くの業務と兼任しているため、一人あたりの施行件数が限られてしまい、技術や知識に個人差が生じている事が大きな課題だと考えられる。今後も集中治療加算の関係や業務の拡大によって毎年増員が考えられる為、施行経験年数の低下が大きくなる事が考えられる。また当院のある岐阜県では東海東南海地震が起こることが予測されており、その対応が必要不可欠になってくると考えられる。しかしながら地震や停電などの災害を経験した者はおらず、課題である。

【考察】レジャーダイバーの増加は今後も考えられるため、課題は多くあるが、第1種装置での減圧症治療の検討、あるいは第2種装置施設とのネットワーク確保

の必要があるのではないかと考えられる。治療数の増加と共にHBOを担当する臨床工学技士が増員されている為、今後は臨床高気圧酸素治療技師を中心とした緊急時対策マニュアルの改訂、および定期的なシミュレーション訓練の実施による知識と技術の共有が必要であると考えられる。岐阜県には第1種治療装置が3か所しかなく、救急疾患への対応は専門医を中心とした連携が必要である。

【結語】岐阜県における当院HBOの必要度は高く、装置を維持していく必要がある。そのためには安全な治療のためのマニュアルや災害対策は随時行っていく必要がある。

表1

	救急適応	非救急適応
耳鼻科	166	500
泌尿器科	0	139
内分泌	5	39
外科	11	4
整形外科	10	22
循環器	6	2
救急科	22	13
合計	220	719

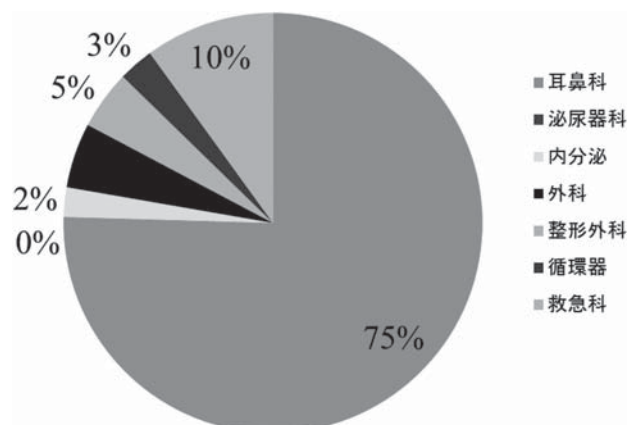


図1 救急適応

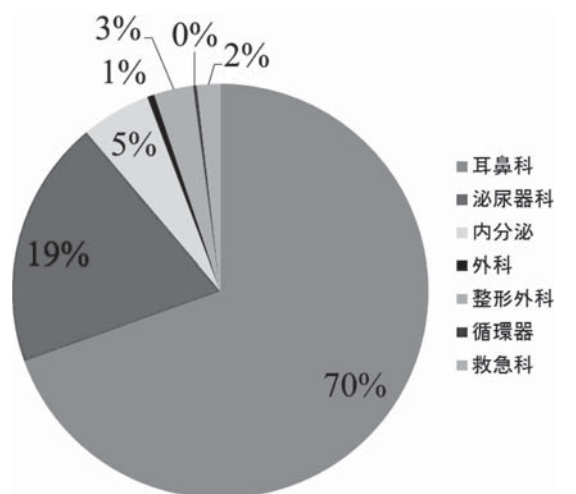


図2 非救急適応